

## 2026年度 SYLLABUS 【博士後期課程】

授業科目名	会計学特別研究		
担当教員名	金子 輝雄		
ディプロマ・ポリシー (DP) との関係			
	DP1	DP2	DP3
	○	○	○
科目のテーマ	<p>テーマ：企業会計制度と法人所得課税制度の関係性に関する研究</p> <p>擬態的には受講者と相談の上、以下のいずれかの内容としたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「確定決算基準」、「公正処理基準」等、企業会計と税制の関係背に関する研究</li> <li>○「キャッシュ・フロー法人税」の実現可能性に関する研究</li> <li>○「企業会計におけるオルタナティブ」に関する研究。SDG s の実現に向けて新たな企業会計モデルの模索を行う。</li> <li>○「複式簿記」に対する記号論的検討</li> </ul>		
科目内容・方法等	<p>前期課程とは違い方法論をある程度意識してもらいたい。ここでは、「人間幸福」のための企業会計であり、「納税者主権」の税制であることを念頭に、現行の制度を批判的に検討する。</p> <p>テーマに関連する基本書に沿って研究を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○金子宏著『租税法』&lt;24版&gt;弘文堂 2021年 他</li> <li>○SDG s の会計：小栗・陣内『会計のオルタナティブー資本主義の転換に向けて』中央経済社 2022年</li> <li>○杉本典之『会計理論の探求』同文館出版 1991年 他</li> </ul>		
到達目標：			
今後の研究に役立つような基本的かつ根本的な先行研究を批判的に検討する。			
評価方法及び評価基準：課題に対する取り組みと討論の状況による。			
60点未満をF、60～69点をC、70～79点をB、80点以上をAとし、C以上の評価に単位を与える。			
<各評価の基準>			
A評価：授業内容を応用できるのみならず、批判的にとらえることを含めて、当該理解をさらに発展させられること			
B評価：授業内容の理解に基づいて、より広いケースにその理解を応用できること			
C評価：授業内容について、概ね理解していること			
授業の方法：			
文献の輪読と討論。			

